

北海道森林管理局入札監視委員会審議概要

開催日及び場所	平成21年7月31日(金) 北海道森林管理局 中会議室		
委員	長	松田 彊	(北海道大学名誉教授)
委員	員	前田 憲秀	(前田憲秀税理士事務所)
委員	員	向田 直範	(北海学園大学教授)
委員	員	丸谷 知己	(北海道大学大学院教授) 欠席
審議対象期間	平成21年1月1日～平成21年3月31日		
抽出案件	総件数	343件	(備考)
治山工事		39件	その他の説明・報告事項等 ・指名停止の状況 ・物品・役務の調達方法別一覧 ・随意契約に関する四半期ごとの監査結果概要
林道工事		8件	
治山工事に係るコンサルタント業務		6件	
林道工事に係るコンサルタント業務		0件	
造林事業		68件	
生産事業		13件	
その他		209件	
委員からの意見・質問、それに対する回答等	意見・質問	回答	
	<ul style="list-style-type: none"> 総合評価落札方式による評価点はどのように採点するのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合評価落札方式による総合評価値の算出については、評価点(請負業者の技術能力等に応じて与えられた得点)を入札価格で除して評価値を算出し、その評価値が一番高い者が落札者となる。 評価点については基準点100点があり、その他に加算点30点がある。その加算点の中に過去の工事実績、ボランティア活動、安全推進に当たっての工夫点などにより総合的に得点が付けられる。 基準点に加算点を加算されて、評価点が付けられる。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 評価点については、入札ごとに変わると考えるが、入札に参加した業者は評価点は知ることが出来るのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 入札結果について、入札筆記書をもって公表することになるのでその時点で知ることが出来る。 	

<ul style="list-style-type: none"> 業者から総合評価落札方式により評価値の高い者が落札者決定となった場合、自社に付けられた評価点等に対して不満の声があるのか。 またその場合はどのように対処しているのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 業者から異議及び苦情があった場合については、受け付けるとともに説明することになるが、総合評価落札方式を導入してから異議、苦情といった問い合わせは今のところ寄せられていない。
<ul style="list-style-type: none"> 総合評価落札方式による高評価点を得るためのコツを業者が得て、その情報が蔓延してしまえば、全て一様になるのではないのか。 評価点を採点する際、故意的に点数を採点することがないような評価する体制整備及び対外的に分かるような形にしておいた方が良いのではないのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 評価点を採点する場合の各項目ごと詳細の採点や算出方法など審査基準までは公表していないので詳細の点数までは割り出せないを考える。
<ul style="list-style-type: none"> 基準についても、業者が技術的に努力したことや体力的な部分をもっと客観的に判断できるような審査にならないのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合評価落札方式については、1年を経過したところであるが、採点に対してはもっと客観的に出来るような努力をしているところである。
<ul style="list-style-type: none"> 抽出事案の説明の中で、入札参加者が2者であるが、競争契約参加資格審査会により、1者が資格を失った場合、1者になった場合においても入札は実施するのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 一般競争については、1者でも有効であるので、その場合でも実施する。
<ul style="list-style-type: none"> 造林事業C35の物件で、落札率の高い(99.0%)理由は何か。 	<ul style="list-style-type: none"> 林齢や生育状況等及び過去の契約実績等からha当たりの単価を算出しやすく、それらを勘案して入札した結果であると考えている。
<ul style="list-style-type: none"> 造林事業、生産事業では、総合評価落札方式を導入しないのか。 また工事費内訳表のように分析しないのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合評価落札方式を造林及び生産事業にも導入するかどうか検討されているところであり、今年度中に導入する方向と聞いている。
<ul style="list-style-type: none"> 造林事業の中で、森林環境保全整備事業、保安林整備事業、保安林改良事業等様々な名称になっ 	<ul style="list-style-type: none"> 契約名称については署に任せている。

	<p>ているが、判りづらい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 契約名称については、大きくは予算科目に着目した名称として区分している。
	<ul style="list-style-type: none"> ”森林環境保全整備事業”としているのは、伐採についても、環境整備、植付の場合についても環境整備としていることから、対外的に疑義を持たれるのではないか。 もっとわかりやすい名称とした方が良くはないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 契約の名称の付け方については、今後の検討としたい。
	<ul style="list-style-type: none"> 今現在電子入札はどの程度の割合で実施されているのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 治山・林道及び建築工事、またこれらに係る調査設計業務については、特段の不備がない限り、すべて実行している。造林及び生産事業については、システムに対応していないので電子入札を導入していない。
	<ul style="list-style-type: none"> 総合評価落札方式導入等により落札率は確実に下がってきているのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料別紙様式6-1「入札方式別発注工事一覧表」及び6-2「入札方式別発注業務一覧表」のように落札率90%を占めており、時系列からすると下がり傾向にある。
	<ul style="list-style-type: none"> 随意契約物件の中で、特殊カラー Sprey とあるが、なぜ特殊で随意契約なのか。 	<ul style="list-style-type: none"> この Sprey の中には、特殊な金属が入っていて、塗布の際に金属成分が吹き出し、金属探知機に反応するような Sprey で特殊であることから、扱っている業者も特定されるため随意契約としている。 また、違法伐採が行われないようけん制する意味でも使用することになっている。
<p>委員会による意見の具申又は勧告の内容</p>	<p>なし</p>	